

《接客の巻シリーズ》

# 看護師さんの言葉



筒木  
幸枝

モニターユ出版



ここは総合病院。泌尿器科の窓口には老齢の女性患者が近づいて行った。紙コップを持ち、困惑ぎみの患者は言った。

「すみません」

奥の診察室から、看護師が足早で出てきて返事をした。忙しそうだ。

「はい」

患者は看護師に訴えた。

「尿をとるよういわれたんですが、出ないんです。さっき、いっぱい出たので……」

●  
泌尿器科にて

●  
看護師  
患者

四十歳代 女性  
七十歳代 女性

「でも無理です。今日は、あちらこちらと検査に行ったりして、待たされる時間も長いし、もう疲れてしまつて……」

「じゃ、検査しないんですね？」

患者の女性は、黙って検診用の紙コップを、看護師に渡した。

その後、患者は、知り合いの患者の傍に行き、話し出す。

「今日は、ずーっと検査で、あっちに行け、こっちに行けで、疲れちゃった。おしっこも、わたし聞いたのよ。トイレに行つていいかって。いいつていうから行ったのに。その後、すぐおしっこを採つてきなさいなんて、言われても無理。」

「ご飯食べたり、水飲んだりした？」

「したけど、無理です。さっきトイレにいったばかりなので。さっき、行く前にトイレ行っていいかって聞いたら、いいって言われたから……。とにかく、今は出ないです」

看護師は、てきばきと言った。

「しばらく経ったら出るから」

「出ないと思いますけど。それに、前回、血液検査したじゃないですか」

「あれは、他の検査で、今日は癌の検査。出さないと、検査ができないでしょ」

あーもう……」

その女性は、しばらく椅子に座って、知り合いの人と会話した後、待合の場所からいなくなった。